

第2群（活動報告）

「宮城県内の摂食嚥下障害に対応可能な病院一覧」について

○ リハビリテーション支援センター リハビリテーション支援班 技術主査 会田良子  
西嶋一智, 川村謙吉, 佐々木千尋

キーワード: 摂食嚥下障害, 病院一覧, 医療関係者との連携, ゼロ予算

I はじめに

在宅や施設で生活している方の摂食嚥下障害への介入について、一般診療所ではあまり実施されていない嚥下造影検査や専門的な訓練、手術が必要な場合があるが、どこの医療機関で実施しているかの情報が少ない。特に、外来対応や障害者・小児の受け入れなどの対象別の可否についてはほとんど把握できていない。また、福祉現場などでは、食事場面観察による嚥下機能評価が行われているが、的確に評価することは難しく、多職種で検討しても心配な症状が続くことなどもあり、不安を抱えながら食事介助している施設が多いのが実情である。このような場合、精密検査を含めた医療での介入を受けることで不安の軽減が図られ、安全・安心の食支援につながる。そこで、摂食嚥下障害に対応可能な病院に関する情報の周知を目的に、調査を実施し、「宮城県内の摂食嚥下障害に対応可能な病院一覧」(以下「病院一覧」)を作成した。

II 方法

県内の全141病院を対象に、電子メールによる自記式の質問票を送付。回収した質問票を集計して、摂食嚥下障害に対応可能な病院一覧を作成。調査実施期間は平成28年11月28日～12月22日、平成29年3月現在の有効回答は77病院(54.6%)。調査の実施にあたっては、東北摂食嚥下リハビリテーション研究会幹事会(以下「幹事会」)等で説明を行い、摂食嚥下障害の治療や地域活動で中心的な役割を果たしている県内の医療関係者から、理解・協力を得た。本事業は電子メールや「幹事会」等既存の組織を活用し、いわゆるゼロ予算で実施した。

III 活動内容

1. 「病院一覧」の作成

対象別(病気や高齢による摂食嚥下障害・障害者の摂食嚥下障害・小児の摂食嚥下障害)に作成した。「病院一覧」には、病院の基本情報、外来での検査や治療の対応の可否、受診にあたっての注意事項等を記載。

2. 「病院一覧」の周知

平成29年3月から当センターホームページで公表するとともに、指定障害福祉サービス事業所等集団指導や地域リハの研修会、また11月に仙台国際センターで開催された東北摂食嚥下リハビリテーション研究会研修会(参加人数約690人)で周知した。また、全国規模の学会で発表して、宮城県の先駆的な取り組みを全国にアピールした。これらの研修会や学会では、「病院一覧」の有用性が認められ好評を博した。

3. 「病院一覧」に掲載されている病院数を集計・分析

病院によって、対象により対応の可否が異なっており、病気・高齢による摂食嚥下障害に比べて、障害者や小児への対応は少ないこと等の課題が把握できた。

IV 考察

- ・地域で活用されるためには、外来対応の可否や対象別の医療情報を提供することが必要と考える。
- ・医療関係者との連携は、事業の円滑な実施とともに、「病院一覧」の周知においても非常に重要と考える。
- ・医療に関する情報については、最新のものを継続的に提供することが求められているが、一方で行政機関においては、事業予算を継続的に確保することは難しい状況にある。したがって、このような事業の実施にあたって、既存の組織等を活用し、できるだけゼロ予算で実施するよう工夫することが大切と考える。
- ・「病院一覧」に掲載されている病院数を集計・分析したデータは、摂食嚥下リハビリテーションの地域課題を検討する上での有益な基礎資料となり得た。

V おわりに

現在、「病院一覧」については、最新の情報を収集しており、情報を毎年アップデートする予定。「病院一覧」の掲載を契機に、障害児・者も含めて院内の受け入れ体制を検討した病院もあり、病院関係者への啓発の効果が見られ、今後関係者への情報発信を積極的に行うこととしている。また、当センターで作成した「要介護高齢者や障害者の摂食嚥下障害への基本的な対応フローチャート」を活用したモデル事業を今年度実施しており、摂食嚥下障害のある要介護高齢者や障害者が必要な検査や治療を適切に受診できるシステムづくりの試行を行っている。

VI 引用文献

- 1) 刑部月, 石川健太郎, 千木良あき子他. 東北地域における障害児・者施設の給食の実態. 障歯誌. 2015;36:p163-168